ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　92　号
２００８．11．13

目　次

遺跡調査報告会のお知らせ……1
研究会のお知らせ……2
遺跡見学会報告……3
遺跡見学会参加記１：「いせきけんがくかい」　谷地向朋也……4
遺跡見学会参加記２：「2008年８月３日　遺跡見学会に参加して」　大友　章子……4
「北海道考古学創設期のころ」報告……5
2009年度総会・研究大会のお知らせ……6
事　務　連　絡
会費納入についてのお願い……6
会誌編集委員会からのお知らせ……6

遺跡調査報告会のお知らせ

今年度行われました北海道内の遺跡調査についての報告会を以下の通り開催いたします。今回は報告の最後に、近年のサハリンにおける調査についても発表をいただくこととなりました。

開催にあたり、発表遺跡の資料と地域ごとの発掘調査の概況を掲載した資料集を刊行します。また報告会終了後には懇親会を用意しておりますので、こちらもぜひご参加ください。

○日　時：2008年12月20日（土）　10：00～17：00　（開場９：30）
○場　所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）　２階　講堂
　　＊公共の交通機関をご利用ください。
○参加費：無料（資料集は1000円で頒布します。）

○報告遺跡（予定）
《午前》　※【　】内は主な時代
千歳市　祝梅川上田遺跡ほか　【アイヌ文化・旧石器】
石狩市　紅葉山52号遺跡　【アイヌ文化】
厚真町　ヲチャラセナイチャシ跡・オニキシベ２遺跡　【アイヌ文化】
《午後》
釧路市　幣舞２遺跡　【オホーツク文化】
札幌市　K39遺跡　工学部共同研究棟地点　【続縄文～擦文】
釧路町　天寧１遺跡　【縄文時代晩期】
函館市　豊崎B遺跡・豊崎P遺跡　【縄文時代後期・早期】
森町　国指定史跡鷲ノ木遺跡　【縄文時代後期】

《特別報告》
2003年～2008年におけるサハリン国立大学の考古学調査（グリシェンコ．V氏）

○懇親会：17：30～（北海道大学百年記念会館「きゃら亭」）　3000円

定例研究会のお知らせ

第２回定例研究会

○日　時：2008年11月22日（土）　13：30～
○場　所：北海道大学総合博物館　２階　共同研究室
　　＊公共の交通機関をご利用ください。

○発表者：荒山　千恵（北海道大学大学院文学研究科専門研究員）
○題　目：「日本列島における音響発生器具の受容と展開」
○要　旨：従来、日本の音文化を対象とした歴史的研究は、主に文献史学・民族学を中心にすすめられてきた。その対象とする時期は仏教伝来以降を中心とし、文献記述に乏しい古墳時代以前の音文化を具体的に論じることには限界があった。また、日本の考古学研究においても、無形である「音」を主体とする音文化を研究することは難しく、具体的に議論されることは極めて少なかった。しかし、近年、発掘調査件数の増大に伴い考古資料における音響発生器具の類例も増加し、これらの資料に対する考古学的評価・見解が求められるようになっている。日本列島から出土した音響発生器具の多くは大陸文化に由来するものと考えられている。しかし、それらの日本列島における受容と展開は、大陸における音響発生器具の機能・用途に必ずしも連動していない。アジア大陸の東端に位置する日本列島ではそれらの音響発生器具をどのように受容し、使用していたのだろうか。本発表では、これまでに日本列島から出土した音響発生器具を中心に紹介しながら、上記の問題について検討する。

○発表者：小林　紘一（株式会社パレオ・ラボ）
○題　目：「AMSによる炭素14年代測定」
○要　旨：放射性同位元素の一つである炭素14を使う年代測定法は、様々な年代測定法の中でも正確に時を刻む時計を使う方法として、半世紀ほど前から徐々に浸透してきた。しかしながら、従来のベータ線測定による炭素14年代測定法は大量の試料を必要とするために、その活躍の場が限られていた。

　四半世紀ほど前に開発されたAMS（加速器質量分析法）は、様々な極微量放射性元素の超高感度測定を可能にした。AMSによる炭素14年代測定は、試料量がベータ線測定法に比べて１／1000以下で済むために、考古学のように貴重な試料や微量な試料を扱う分野において活躍するようになったAMS応用技術の一つである。

　ここでは、AMSの概要、AMSによる炭素14年代測定法の原理、装置、応用例を紹介し、更に、測定値と実際の年代との差を補正する暦年校正法、およびそれを精密に応用したウイグルマッチング法の詳細を紹介する。

第３回定例研究会

○日　時：2009年２月８日（日）　13：30～
○場　所：北海道大学総合博物館　２階　共同研究室

○発表者：守屋　豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室）
○題　目：「続縄文時代竪穴住居の上屋構造」

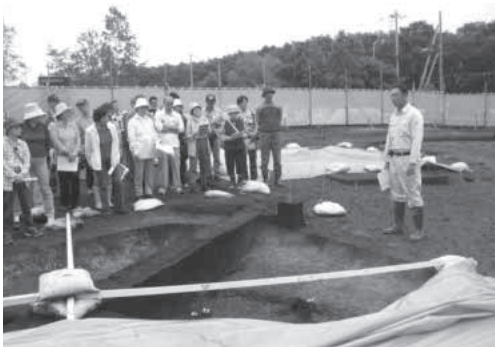
遺　跡　見　学　会　報　告

８月３日(日)に実施した遺跡見学会は69名が参加し、道央の遺跡や施設を巡りました。雨の影響で遺跡見学を遺物見学に振り替えた場所もありましたが、各担当の方々が熱心に解説して下さり、参加者の方からは「今までいちばん印象に残る見学会になった」との声もいただきました。

見学コース
１．千歳市祝梅川上田遺跡（三浦・愛場氏）
２．千歳市祝梅川小野・梅川４遺跡（鈴木・酒井氏）
３．苫小牧市博物館・国史跡静川遺跡（赤石氏）
４．厚真町ヲチャラセナイチャシ跡・幌内７遺跡・整理事務所（乾・小野・奈良・天方・山田氏）

休日にもかかわらず対応して下さった各担当の方々にお礼申し上げます。
また、今回も見学会に参加された方に参加記を寄せていただきました。ご協力いただいた谷地向華子様と谷地向朋也君、大友章子様、ありがとうございました。

祝梅川上田遺跡の見学風景


祝梅川小野遺跡の見学風景

苫小牧市博物館の見学風景

静川遺跡の見学風景

オニキシベ２遺跡出土遺物の見学風景

幌内７遺跡の見学風景

「いせきけんがくかい」

こうさい小がっこう　１ねん
やちむかい　ともや

バスにのっていせきをみにいきました。いろいろなどきやたくさんのやじりがあったよ。
アイヌのひとをだましたりたたかいをしたそうです。そんなことはだめだよね。いまアイヌのひとがたくさんいたらゲームやあそんだりしようね。
ぼくもいせきのべんきょうをしてみたいなぁ。

谷地向朋也君（厚真町青少年センターにて）

「2008年８月３日　遺跡見学会に参加して」

大友　章子

参加して良かった!!
そう思える貴重な一日でした。千歳・厚真の各遺跡でのたくさんの住居・遺構跡と立ち並ぶ遺物のお立台。
千歳市祝梅川小野遺跡で見せていただいた小さくて美しい岩偶、祝梅川上田遺跡で見せていただいた、本来は鎧の一部に使う為に作られた何枚もの小札、厚真ヲチャラセナイチャシ跡で見せていただいた迫力を感じさせる銀と銅を施した小刀や矢筒の装飾部分。
厚真幌内７遺跡に残されていた道跡。
さらに、苫小牧市博物館で保管されている苫小牧市国史跡静川遺跡から出土した膨大な量の遺物の中に居ると、天井までの高い棚の所為ばかりではなく、自分がとても小さな存在に思えました。
生活のほとんどすべてを自らの手で、どんな風に工夫しながら造り上げていたんだろう。器用な人も不器用な人も、物造りを楽しんだ人もいやいややった人もきっと居たはず、と勝手な想像が膨らみます。大きな溝を巡らせた環濠が発見された静川遺跡は、今は埋め戻され小高い二つの丘が残っているだけでしたが、丘の一つは聖域ではないかと考えられているとの説明に、また色々な思いが広がります。自然と向き合い共に生き、自然も命もそして目には見えない何かをも尊ぶ暮らしがあったのだろうかと。
私は厚真の隣町の生まれ育ち、静川遺跡発見の元となった石油備蓄基地に勤務していたにもかかわらず、静川遺跡がある事を見学会に参加して初めて知りました。
自分の身近な場所にこんなにたくさんの昔の人々の暮らしがあったんですね。
厚真町で発掘されたアイヌの墓では、男性は刀剣、女性は鉄鍋が副葬されるのが通常であるのに、両方が副葬された墓が見つかり、「男まさりの女性だったのでは？」とのユーモア溢れる説明に思わず楽しい!!で締め括った見学会でした。
お忙しい中見学会の為に準備をして下さった皆様、そして雨に濡れながら現場で説明をして下さった皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

大友章子さん

北海道考古学会設立45周年講演・座談会
「北海道考古学会創設期のころ」報告

さる10月19日（日）午後２時より北海道開拓記念館講堂にて北海道考古学会設立45周年講演・座談会「北海道考古学会創設期のころ」が約40名の参加者を得て開催されました。

1963（昭和38）年10月19日に設立総会が北海道拓殖銀行本店で行われてから、ちょうど45年を迎えたことを記念し、考古学会設立に奔走された竹田輝雄会員（現北海道文化財保護協会副会長）、学会草創期から考古学会の運営に大変力を尽してこられた野村崇会員（現本会会誌『北海道考古学』編集委員会委員長）・出村文理会員（書誌学研究者）・菊池俊彦会員（現本会監査委員）にご登壇をお願いし、お話を伺いました。

第１部の講演では、竹田会員が戦前の考古学界の動向から本会設立までを説き起こされました。第２部の座談会では現運営委員の平川善祥会員を司会に４氏から、設立から1970代までの考古学会の運営や取り巻く状況について、写真の投影も交えて大変わかりやすくお話ししていただきました。

また、会場には登壇者が持ち込んでくださった当時の研究誌『貝塚』や『歴史家』などの資料類、モヨロ貝塚発掘時や北海道考古学会設立総会の集合写真なども展示されました。

講演・座談会終了後は、新札幌のアークシティホテルに場所を移して懇親会を実施し、座談会では語り切れなかった、当時の様々なお話がなされました。

当時を知る会員が少なくなってきている現在、大変貴重なお話を伺うことができた機会となりました。この講演・座談会は文字化して『北海道考古学』次号に収録予定です。ご登壇いただいた皆様には紙上を借りてあらためてお礼申し上げます。

講演中の竹田輝雄氏

同左

竹田氏、野村崇氏

出村文理氏、菊池俊彦氏

2009年度総会・研究大会のお知らせ

○日　時：2009年５月９日(土)　10時～17時
○場　所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）
　　＊公共の交通機関をご利用ください。
○テーマ：擦文文化について（仮題）

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学部本科生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

2009年３月刊行予定の第45輯への会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。論文・研究ノート以外にも、資料紹介・書評などの投稿も歓迎いたします。編集の都合上、投稿を予定されている方は、あらかじめ編集委員会にお知らせいただければ幸いです。なお、投稿規定に関しての詳細は、2007年度版北海道考古学会会員名簿53頁～55頁に掲載した「北海道考古学」投稿についてをご覧下さい。

原稿送付先：北海道考古学会会誌編集委員会　宛
　　〒060-0811　札幌市北区北11条西７丁目　北海道大学埋蔵文化財調査室
　　TEL：011-706-2671　FAX：011-706-2094
締め切り：2009年１月末日

事務局の手違い等により、過年度会費の納入後に会誌（既刊：～第44輯）が送付されていない場合は、EメールやFax等でご一報ください。

北海道考古学会だより　　第92号　　2008年11月13日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒062-8520　札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号
札幌大学文化学部　川名研究室気付　TEL/FAX（011)852-9313
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011)668－1131